

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さん、こんにちは。ただいま、登壇の許可をいただきましたので、これより3番、上田雄一の一般質問を始めさせていただきます。

モニターを。今回も、武雄市の今後の方向性について、ということで、通告をさせていただいております。

今回大きく2項目。1つ目に教育について、2つ目まちづくりについてでございます。教育についてのほうは、ICT教育と反転授業について。まちづくりについては、道路行政についてと企業誘致について。最後に平成26年度に向けてということで、通告をさせていただいております。今回ですね、改選を控えてることもありまして、喫緊に話を伺いたいということだけを抜粋しております。よろしく申し上げます。

それではさっそく質問に入ります。まずICT教育と反転授業についてになりますけれども、12月議会のほうで、反転授業という言葉だけが先行しているというところですね、学校現場、教職員並びに保護者への周知方法はどういうふうになっているのかというところを質問をさせていただきました。私のほうでは、すべての各学校で説明会を実施すべきではないか。というところですね、質問をさせていただいたところでございます。その際の答弁としては、すべての学校で説明会を実施するというところで、いろいろスケジュール的なものを答弁をいただいております。

これはですね、私が——私の子どもが通っている小学校、御船が丘小学校になりますけれども、こちらでの説明会の風景でございます。今の現状でですね、御船が丘小学校では実施していただきましたけれども、ほかの学校での実施状況をまずお伺いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

（モニター使用）ただいま、上田議員のほうから御指摘いただきました、保護者説明会の日程ですが、昨日の3月4日火曜日、朝日小学校の説明会をもってですね、全11校の説明会、保護者への説明会が終わったという状況です。右側に資料集、小さいですが、資料の数、掲示しておりますが、どの学校においても非常に多くの保護者の皆さんに参加いただき、不安の解消に少しは前進したのではないかなというふうに思っています。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい。資料数が記載してあります。

これ大体、保護者の世帯数、保護者の数、世帯数の資料数の何パーセントになるかという

データまでお持ちですかね。そこら辺をまず、ちょっと確認させていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

この資料集、(モニター使用) おおよそ保護者の参加予定数ということで学校から要望があった数ですので、大体参加予定の全体としては保護者世帯数というふうに考えていただいていると思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい。まあ、おおむね、たくさんの保護者の皆さんに説明会参加いただいているのかなというような状況でございます。その際にですね、これまでの質問でも再三、話をさせていただきましたけど、まあ保護者の声をどのように受け止めているのかというところをちょっと話を、いきたいと思うんですけど。御船が丘小学校も含めてなんですけど、やっぱり一番、こう、保護者の方の不安、疑問に思われているのが大きくわけて3つじゃないかなと思うんですよね。私が認識してる感じでいけばですね、まず1つ目はやっぱり壊したり、紛失した場合の責任の所在はどうなっているか、その後の対応をどうするのか、というのがまず1点。それに、まあタブレット使用することによって、この目とかの影響がどういうふうになるのか、というのが2つ目。そして3つ目は、家庭でのこう、ネット環境を含む、要は本来の目的、反転授業なり、本来の目的以外に、これも、この議会の場でも質問をさせていただきましたけど、ちょっと言うと、タブレットに、こうなんというんですかね、タブレット、ちょっとそれにばかり特化していくというようなこととかの利用の対応、そこら辺がですね、一番、こう、保護者の中では多かったんじゃないかなと思うんですけど、これと、その辺は保護者の声、どのように認識をされているのか答弁お願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

ただいま、御指摘にありました（モニター使用）ように、教育委員会のほうでもですね、保護者に対して、タブレット端末を使うことによる不安はなんですか、というアンケート調査を行っています。

大きくやはり3つです。一番多いのがやっぱり、タブレット端末の破損、紛失した場合はどうするのか。2番目は健康被害。特に視力に対する影響は大丈夫なのかと。で、3つ目としては、インターネット中毒という言葉に象徴されるようなタブレット端末習慣化中毒。こういったものが不安、どうゆうふうになるのかという質問はやっぱり中心となります。

われわれ教育委員会の回答としては、まずタブレット端末の破損、紛失に関しては、教育委員会のほうですべて保証するという形になります。ただ、もちろん、市で買ったものですので、そういった取り扱いには丁寧に扱うようにという指導が前提となります。

また、視力への影響なんですけど、どうしてもタブレット端末をずっと使うような誤解があるので、実は、例えば、授業の中でタブレット端末を使う。これ、左の下の赤い部分が、大体使う時間ですけれども、反転授業による、家庭での持ち帰りの動画も大体7分程度です。で、繰り返し見たとしても、大体20分あれば終わってしまいます。また、授業中でも、タブレット端末を使うという時間というのは5分、5分くらいが、大体このくらいの程度の使用時間ですよ、と。これも、すべての授業の中で扱うことではないと、いう説明をするとですね、「あ、その程度ですか」という形で不安の払拭には、できてるんじゃないかなというふうに思います。

タブレット端末の中毒、習慣化については、インターネットを家庭では接続できないような設定にする、という説明を申し上げると、こちらのほうも大体、理解いただいているというふうに認識しています。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ちょっと、このまましとってください。まあ大体、おおむね、私の認識と一致してるところなんですけど、今回のこの説明会を実施することです、保護者の不安の状況、そういうのはどういう感じなんですか。ていうのはですね、うち、私は御船が丘小学校のほうの、説明会に参加したんですけど、当然そこら辺の質問等が出ました。出た上で、いろいろな説明を聞いた上で、保護者の方は、その参加されている方は、おおむねもう、不安を払拭されたように感じたんですけど、そこら辺は説明会を実施する上で、どのような感じでしょうか。そこら辺、答弁お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

もちろん1回の説明で、（モニター使用）すべての不安が払拭されたというふうには思いませんし、どうしてもこの保護者会のほうに出席できない保護者の皆さんもいたと思いますので、まず、繰り返しやらなきゃいけないというのは大前提だと思っています。ただ、初めて説明会ですので、その点でいうと、最初の不安はずいぶんとなくなったんじゃないかな、というふうに思いますが、実際、今後ともですね、いざタブレット端末が配付されて、その後どうしていくか、っていう、例えば保護者への関わりとか、具体的な不安というのは4月以降もあると思いますので、そういったときには、繰り返し、こういった保護者会の説

明会というものを開催していきたいというふうには思っています。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

昨日の答弁の中でもオープンデーやったですかね。そういった感じで、保護者の参観等もやっていく、ということですので、そこら辺でまた、状況はいろいろ認識されるんじゃないかなと思っています。

もういよいよですね、もう、すぐ迫ってますので、準備はぬかりなくお願いしたいところでございます。

今回ですね、機種や、アプリケーションについてということで、もう仕様が大幅に、ある程度決定をされたということでございます。これまでですね3度の選定委員会を実施されて、プロポーザル方式による入札、それを経て、最終的に2月4日の臨時議会で可決成立したという流れだと私は認識しておりますけれども、改めて、その来春整備されるそのタブレットの詳細の説明等をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

上田議員が、今、示していただいたとおりの成立方法でタブレット端末の導入が決定いたしました。実際にこれが、機種です。（実物を示す）おおざっぱな機能としては、アンドロイド4.22、ディスプレイサイズは7インチ、ストレージは16ギガ、そしてこの保護カバーと保護フィルムがついた、というものです。

機能としてはですね、生徒が、児童がここで記入したものが、先生とコミュニケーションできるというような機能をまずベースに入れて、まずこれを使って、先ほど——先日来申し上げています、一人ひとりと向き合える、先生たちが向き合えるような形でのアプリケーションの導入をしています。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい。実は私、7インチのディスプレイを見たのは初めてでして、結構細かあなっていう感じがしました。この、カバーはもう全員こんな、この黄色かカバーになるとですか。そういうわけじゃなかとですね。

〔代田教育監「全員」〕

全員これ。色も。

〔代田教育監「はい」〕

すごかですね。センスの、よかとか悪かとか、よくわかりませんが。(笑い声) 物すごく派手で目立つし、まあなくしたりなんだりは少なかとかかと、いうふうを考え——気がします。まあ16ギガということですね、まあ仕様のには、私は問題ないというふうに考えておりますので、すみません、チェンジよかかでしょうか。はい、ありがとうございます。

それですね、今回そのICT教育を反転授業取り入れるっちゅうことですね、今、現在使用するソフト、アプリは、先生と塾等で、連携しての準備というふうになっている訳でございますけれども、学校現場のですね、負担でいうのは、どのように考えられているのかを、答弁お願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

学校現場への負担に関してですが、もちろん、反転授業用の動画をつくるという意味で、先生方の負担は従来よりもふえていると思います。ただ、これは子どもたちのための新しい取り組みですので、ここの部分は、ぜひ先生方にも負担と承知で頑張ってもらいたいというふうには思っています。ただ、これをすべて先生方がつくるとなると非常に大変だと思います。そこで、企業との連携を図りながらつくるというのが、今の武雄市のスタイルで、具体的には先生が、こういう動画をつくってほしいという依頼書のもとに企業がつくって行って、そのつくったものに対して修正を入れていくという形となるべく、現場、先生方の負担がないように仕組みとしてはつくっています。

その一方でですね、先生方への負担、タブレット端末を入れることによって、例えば小テスト、授業前に授業後に行った小テストなんかは、よく、職員室でずっと採点をするという業務があるんですが、これは、タブレット端末を入れることによって先生のそういった、業務の削減というのはできると思っていますので、そういったところをぜひ充実させていきたいなど、いうふうには考えています。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

さらに加えて、これ先生と塾等の連携ってあるんですけど、どうも、なんか先生とその企業だけで、こう、行きそうな気がしますのでね。僕はもともと、その、当初の発想は、塾も、一緒にこうできるとこはやるというので、例えば、土曜日の英語の授業であるとか、放課後のクラスっていうのをやったつもりでいるので、ぜひ教育委員会にお願いしたいのは、塾もこう一緒にやるようにね、お願いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね。今回ですねこのタブレットを使用することによってですね、私もちょっと、立场上ですね、学校現場にちょくちょく出向くんですけど、やっぱり気になるころがですね、ここなんですよね。このタブレットを使うことによってその報告書関係がですね、とにかく放課後の先生たちってもう、そいに追われよんさごたふうに見えるんですよ。

だからこの、今回この反転授業のアプリ、ソフト等検討しながらですね、ぜひこのタブレットを使うことで、報告書義務の業務の簡素化だったり、そこら辺をですね、学校の負担感を減らすっていう方向。なんか術がないのかなと思ひまして、そこら辺をぜひちょっとお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これね、タブレットを使ってもね、報告書を書かなきゃいけない、一緒なんですよ。だから報告書そのものをなくすのが一番いいんですよ。いや、だってそうじゃないですか。（発言する者あり）だからあのね、これ、でも学校の先生って真面目なんですよ。私と違って真面目なんでね。必要以上に書くんだけれども、そもそもそれをちょっとやっぱりなくさないよね、僕は駄目だと思いますよ。

だから、これも市の教育委員会にお願いなんですけれども、そういう報告は、もうほとんどなしにすると、もう。任せの方がいいですよ。特段の何かな——あった場合っていうのは必ず情報が入りますから。だからその、入る信頼関係を、学校現場と教育委員会できるときゃいいんですよ。だから僕はね、本当そう思いますよ。

だからこれはもう簡素化じゃなくて、一たん全部ゼロベースにする。その上で、どうしても問題があった場合には、悪い話だけ入れてくれと、いうこと。うちは今現にそうしてんですよ、うちの中は。だから、もう事後報告はもう必要以上にやるなど。そのかわり、悪い情報だけ事前に入れてくれっていうふうに言ったらね、悪い情報だけがいっぱいやってきて、僕は鬱になりそうです。（笑い声）

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そうなんですよ。私も保護者としてですね、言わせていただければ、学校の先生はですね、やっぱり子どもたちの人間形成の上で、できる限り子どもと関わってほしいというのが、願いがあるんですよ。ただ、残念ながら、放課後の職員室なんかは、結構やっぱ報告書に追われよんさとこのあるけんですね。ぜひ、これが何とか簡素化できんかな、と思ひましたけど、前向きに答弁いただきましたので次にいきたいと思ひます。

次はですね、これは前回の議会でも使いました。ちょっと、A君、B君、C君、Aさん、Bさん、Cさんですね。こういう今のテストの点数が、まあ、この程度を取っている子どもがいると仮定した場合の、今回こういう反転授業を行うことによって、ということで、これまでの説明では、こういうふうに、みんながこう、上がっていく。むしろ、こっちのこのC君のほう、Cさんのほうが伸びる、というような説明を聞きました。その際に、私は反転授業はどうしても家に持ち帰って予習をするので、一生懸命する子はもっと伸びるやろうって。しない子、全く予習しない子は、もう全く変わらんやろうって、いうことで言いました。ここの席で質問をしました。ただ、その際の答弁としては、いんや違う、こっちですと。こっちですよ、という答弁をいただきました。ただ私はこの反転授業だけを捉えればですね、こっちじゃなくて、こっちのケースも考えられるんじゃないかなと思うわけですよ。ただ、答弁としては、いいやこっちですということでしたので、どういうことなのかと思っておったところがですね、私も期待している効果の、一番の効果の中に、このCラーニング機能というのがあります。

これはですね、ちょっと見にくいんですけど、これ先生のタブレット、写真をちょっと撮らせてもらった分です。問題があって、答えを、例えばこれ4択をした場合に、このときは8人が解答している、ということで正解が8人。全部、ここはまあまあクリアしていると。この下は、ちょっと問題はつきり覚えてませんが、正解が一番上なのに、2人が正解で、あとの子はちょっと正解をしていないというところ。こういうデータがですね、瞬時に先生の手元に残っていると、送られてくるということなんですよ。

これはどういうことかと言いますと、これまでの学習では、授業をまず受けます。授業の中に小テストというような感じで、実施がされます。それを、授業終了後に職員室に戻って、先生方がこう丸つけ、採点をするわけですよ。だと思っんですよ。そこでもし、理解をちょっとしてなくて、ちょっとつまずいている子どもが仮にいたとした場合、翌日、とか結局放課後も職員室で採点をしているので、このつまずいている子に対する対応というのは翌日の次、翌日以降の時期での対応になるわけですよ。ただ、翌日の授業となるともう既に次の今度授業に進んでいるということで、結局ですね、このつまずきが、いろんな対策が先生方も打っていただいていたんじゃないかと思っんですけど、どうしてもそれが翌日以降の対応になっていくということで、なかなか厳しい状況だったんじゃないかと。

これを今回、このCラーニング機能を使うことによって、授業を受ける。小テストを実施。この小テストが結局タブレットを使っつての小テスト。小テストを実施することで、教師のタブレットにそのまま瞬時に状況が把握します。となると、翌日持ち越さず、この子はどこでつまずいているのかなというのが、その時点でどっかつまずいている、というのがわかって、即座にその場で対応できる。だから、こうTTの効果絶大というふうにしていますけど、今学校は、低学年は少人数学級か、チームティーチングを選択をしますけど、このTTの効果

というのも非常に出るんじゃないかと出ている・意見が出た・出します。

だからこそ、さっきのCさんの学力が伸びるのかなと。ちょっと私、そういう認識でいますけど、それ、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

授業の流れ（モニター使用）自体はこの認識でいいんですが、その反転授業を加えると、さらに、この翌日に持ち越さない、つまずきを残さない、ということができると思っています。つまり、反転授業の動画を見た後、必ず小テストをするような仕組みになっています。ですので、これよりもさらに、授業を受ける前に、この子たちはどのくらいのつまずき、問題点があるのか、全員わかっているのか、この子と、この子はわからないのか、というのを把握できるような形になっているということです。つまりこれ、先生用の端末で、授業前の状況を先生が把握している状況です。全員正解と、3名くらい間違った問題がある。ここは当然名前もわかるし、感想があるということで、実際に、授業前に先生が生徒の知識状態を把握できる。

授業中も上田議員が御指摘があったようにですね、授業中でも小テストを行うことによって、同じ問題だったり、発展問題がどのくらい定着したのかなということも先生方は瞬時にわかるということで、もし、わかってなかったらもう一回指導方法を改善すべきだし、ほかの学習で、また翌日に残さないという体制ができるという意味で、こういった機能が、こういった指導法が実現できる、という意味で大きいというふうに考えています。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そうしたら結局はこの授業を受けるこの前に反転授業で予習をして、その時点で小テストを、そこまでが家庭学習で実際入ってくるということでの流れですね。わかりました。それだったら効果がまたあるのかなと思っております。

そしたらですね、いよいよこの反転授業、ICT教育がいよいよ春からスタートするというので、これまでタブレット関係も仕様が決定し、説明会等も実施しているということで、これまでも、あと残り数日程度しかないのかなと思いますけれども、現在、準備状況でどうですかね。今、5月から実施予定ということであったかと思っておりますけど、そこら辺、準備状況はどうですか。実施できそうですか。そこら辺を。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

現在、来年度の前期、5月、6月、7月に使う算数と理科の反転学習の動画を制作しております。スケジュール的には、非常に順調にいていまして、先生方も、どんどんどんどん、先行してつくって、企業さんのほうがむしろ納期にぎりぎり頑張っているという状況で、スケジュールどおりいってですね。5月からは——4月にタブレットに慣れて、5月からは反転授業のほうを順調に導入できる予定で進んでいます。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

これですね、2月の臨時議会の討論のほうでも御紹介しましたが、保護者の中ではですね、やっぱりかなり期待をされている感が伝わってくるんですよ。ある人はですね、武雄に引っ越して来られたお母さんがいらっしゃって、これは今回のこのICT授業、反転授業は、武雄に引っ越してきてよかった、って思えることの一つがもうこれだ、とおっしゃる方もいますし、またですね、ある方は、これが進んでいけば、今通信教育、家庭の通信学習にいろいろお金をかけてますけど、それがやめられるんじゃないかと思ってちょっと期待してます、とかって言う方もいらっしゃいます。

ですので、私もですねこの反転教育、ICT授業に期待をしておるところですけども、ちょっと一つ、うがった見方のちょっと個人的な心配を1つだけ言いたいと思いますけれども、今回の、このICT教育、反転授業が効果を発揮をします。

効果を発揮すると、武雄の子どもたちの学力ちゅうのが向上していくんじゃないかなと。となると、いい大学に入ったり、いい企業に進んだりというのは期待をしちゃうのかなと。となるとですね、子どもたちが、優秀な子が武雄に戻ってきてくるっのかなと、武雄に残ってくるっのかなと、そういうのをちょっと心配してるわけですよ。むしろそっちを心配せんばいかなとかなと思いながら、そこら辺についていかが——どうですか。考えをお伺わせいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話にありましたように、このICT教育の推進によりましてですね、できるだけ、どの子ども本当に一人一人の子どもたちがですね、確かな学力をつけてくれることも期待しますし、同時に、きのうから話題になっておりますように、その学力だけのことじゃないと。見る時間非常に短いんだという説明を教育監いたしましたけれども、できるだけそれを持ち寄って、話し合って、心の面も育っていくんだということを目指しております。

そういう中で、学力の考え方もいろいろございますので、そのいい大学、いい企業、という方向に向く子どもばかりでもないだろうと思います。自分の学力、興味、特性を生かして

ですね、いろんな面で活躍してくれることだと期待おりますので、そういう意味で、武雄の思いというのはしっかり、心に残って。残るうんぬんっていうのはちょっと即断できませんけれども、そういうふうな思いで取り組んでおります。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ僕もうがってると思うんですけど、これだめだと思いますよ。こんなこと出したら。これね、出すとね、いや、今残ってる子たちとか、僕らが、なんか頭の悪い人たちがね、(笑い声)いやいや、そうだと思いますよ。だから、こういうだからね。まあ、上田議員はそんなことはないとは僕は信じていますし、事実そうだと思うんですけども、これは偏見だと思いますよ。

それよりも、僕らは、そのいい大学、いい企業へ進むっていうのだけじゃなくてね、まあそれもいいかもしれないけれども、何度も私も言っていますけれども、やっぱりこう飯が食える、魅力的な大人をつくれっちゅうことなんですよ。(「そうそうそう」と呼ぶ者あり)それで、しかもどっかなんかね、正解がこう、3つあるうちの1つを選ぶのではなくて、ね。もう私かもしれないですよ。もう黒を白と言い切るって。ほんで自分で正解をつくっていく、そいでグローバルな、もう本当に、これ、日本ってまだね、生ぬるいんですよ。

お隣の韓国・中国とかねアメリカもそうなんだけど、我々の次の世代が伍していかなきゃいけない世界っていうのは、本当の意味での、もう弱肉強食なんですよ。そこでしなやかにたくましく生き残っていくためには、公教育、小学校の公教育が絶対必要なんですよ。だから、そういう意味で僕らはやろうというふうになっているし、ただそれが押しつけであっちゃいけないからね。だから、特に小学校の時は、僕は不登校でしたけれど、楽しくね、楽しくやっぱこう学んでいくって、主体的に、自立的に学んでいくっていう環境を整えるのが、我が教育委員会の仕事だと思うんです。それを僕は予算編成権を持っていますので、まあ議会は議決権があるじゃないですか。それを全面的にバックアップするのが僕らの仕事だというふうにごう思っていますので。ぜひね、そこはきょう多くの方もごらんになつてると思うんですけど、ぜひ御理解をしてほしいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

いや、もう本当うがった見方なんですよ。ただですね、このICTがどういう効果をもたらすのか、私はですね、それをおろそかになることはないと思うんですけど、ぜひですね、こっこのこのふるさと武雄を愛する教育。まあ、タブレットを使わない教育しか受けてない私たちなので、やっぱりそこが見れない部分があるんですよ。だからこそやっぱ武雄を愛

して、とにかく武雄が好きになるというような教育も、やっぱりもっとしていったって、大事にしてほしいなど、いうところがですね、まあちょっとうがったところだったんですよね、はい。それでは次に行きたいと思います。

まちづくりについてであります。まず、道路行政についてなんですけど、これはですね、小楠交差点になります。小楠交差点の写真になりますけれども、今回ですね、いろいろお話を伺ってる方の中にですね、こっちのこの川良方向から、川良だったり、武内の方、若木だったり、北方の方がまあよく使われるのかなと思うんですけど、八並の方とかですね。ここの朝のラッシュで物すごくここを通過するのが時間がかかると、右折のレーンの信号が出ないと。ここがですね。まあ通常の赤、黄色、青の信号になるわけで、ここの右折の信号の矢印表示がないので、なかなかこれが右折ができないという話を伺っております。で、警察のほうにもですね、私もいろいろ相談にも行きました、何度か。

するとですね、ここは現実問題としては、こっちはですね、右折レーンがあるんですよ。こっち側がですね直進、左折レーンと右折レーン。ただ、こっち側がですね、直進と、まあ右折、スペース的にはあるんですけどここに、その分離の線がないということで、これが今の段階ではできないというような話を伺いました。で、これが武雄市さんのほうで、ここの道路幅を考慮いただければ可能になるんじゃないかというような話をちらっと伺ったんですけども、こちら辺の、今後の計画予定とその信号の解消が可能なかどうか、そこから辺合わせて答弁お願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

交差点の部分的な、まあ今、部分的に改良をしまして、今の状態での開放というのはなかなか難しいということで、信号処理について関係機関と協議をしましてまいりましたけれども、南北の、まあ川良方面からの路線を優先してですね、時差式にするというふうなことも協議をしたわけなんですけども。今度は、東西、温泉通り、温泉駅の方から来る路線のほうも今、現状も、まあ今混雑してると、渋滞してるというふうなことで、さらに時間差をつけることによって、渋滞が予想されるというようなことで、現状の時間配分が一番最良という判断をしているところであります。交差点の改良につきましては、交差点付近の建物移転のまあ状況にちょっとよりますけれども、平成27年度中には、何とかこの分につきましては改良を行いたいというふうに考えているところです。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい。交差点の改良、27年度中に。ただ、その信号はなかなか厳しい。この、要は――ご

めんなさい。違う。こっちの、交通もありますけど、こっちの東西の交通もあるということですね。ただ、まあちょっとそこで、警察の方ともちょっといろいろご相談をさせていただいたんですけども、今の、信号の機能もいろいろあるっちゃうことですね、その時間帯だけをちょっと限って、朝——とにかくここ、朝の通勤ラッシュのところ、とにかくすごい状況らしいんですよね。だから、その時間帯だけでもこうなんかこう、操作がしようと思えば、警察のほうはできるというような話をちらっと耳にしたんですけども。そこら辺を一緒に協議してはいただきましたか。いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

時間帯、朝の時間、まあ夕方の時間だけの、時差式ということについては今のところ協議はしておりません。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい。まあその時にちょっと、いろいろアドバイスはいただいたんですけど、そういうことも可能だということでしたので、ぜひそこも合わせてですね、改めてちょっと協議をしていただければなと思っています。

改良も、土地の——違う、土地の買収、買収やったですかね。そこら辺も、ここんところも、どうなるんですか。もう歩道が今既に何となく歩道みたいな形になってるんですけども、ここら辺はもう信号のつけかえとかそういうのは当然あるかと思えますけど、スペース的にはもうある程度確保はできてるんじゃないのかなというふうには、気がしておりますけれども、そこら辺いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

部分的に、余地が完了しているところもありますけども、一部だけ、拡張してですね、そこだけをレーンをつくるというふうなことが、さらにまた、安全性に問題が出てくるというふうなことで、今のような状態になっているということで、ある程度、一定の延長ができたときにですね、合わせてするというほうが、安全性を考慮して、今の状態になっているということで、お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい、わかりました。この先のほうの部分でもです、ということもですね。はい。
それでは続いて、企業誘致のほうに入りたいと思いますけど。まず若木の工業団地については、これも先の議会で質問させていただきましたが、今回空いてた、九州西濃運輸さんがここに入っていたということ、若木の工業団地は完売したという話でございます。

北方インター工業団地につきましては、全総面積 18.4 ヘクタールのうちの、この部分。時計でいうと 10 時、11 時ぐらいのところになりますけれども、3 ヘクタールが、コスモス薬品さんが進出決定という話を伺っております。

この企業誘致はですね、8 年前、樋渡市長が当選されて、まあ当選される前にか、マニフェストというのが出されました。マニフェストを見て私が最も期待したのが、やっぱり企業誘致。市民の皆さんも多数いらっしゃったと思います。

この企業誘致。これまでのまず、武雄。最近ですね、いろいろなうれしいニュースを、いただいておりますけれども、この企業誘致の実績をまとめて、ちょっと御紹介をしてもらえれば、非常にいいなと思うんですけれども、いかがな状況でしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

（モニター使用）失礼いたしました。

樋渡市政になりましてからの、企業立地の実績・状況ということでございますが、モニターをごらんいただきたいというふうに思います。

これは 2 期 8 年の企業誘致の実績を企業誘致、企業立地課で進出協定を結んだものに加えまして、病院、CCC までを整理をいたしたところでございます。これにつきまして、まあ見方としましては青が 1 期目の平成 18 年から平成 22 年まで。それから赤が平成 22 年から現在までということでございます。全件合わせますと 10 件ほどございます。

特に新病院につきましては 1 期目と 2 期目ということで、現在 420 名。1 期目で 260 名、2 期目で 160 名ということで、現在 420 名が雇用されているというふうなことでございます。

近隣の市とですね、武雄市を比較をいたしておりますけれども、武雄市が 10 件、近隣についてはごらんのとおりでございます。

非常に武雄市が突出しておりますけども、今、全体で、約 1,050 名、1,100 名ぐらいの雇用が創出できたものというふうに考えられます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、樋渡市政ってなってからというよりは、これ職員の頑張りなんですね。

まず、青のときが、私が着任して、直ちに景気が悪くなったんで、なかなかね、思うようには伸びなかったんですけど、そのときに、これ、当時の前田企画部長、営業部長と相談しましてね、担当の部長級のセクション置く必要があるだろうということで。一番最初によく頑張ったのが、あの亡くなった伊藤元康です。その次に、今の北川理事を中心として、千賀さん、あるいはその議員さんの頑張りで、僕はここまできたというふうに思っているんですね。だから、担当のセクションが物すごく強烈に動いたってということと、特にあの、北方の工業団地は、これから多分、続々入っていくと思うんですけども、それで、まあ、黒岩幸生——引退される黒岩幸生議員さん、そして、宮裾の区長さんを初めとして、地元の皆さんたちの、もの凄いの、あの熱い、そして暖かい熱意でね、あれだけの規模の面積があつという間にできたということが非常に大きい。

それとやっぱり、先ほど言いましたけど、議会がやっぱりね、物すごく、ここは好意的だったんですね、議会が。ですので、いろんな、実は言えること、言えない話がいろいろありますけれども、本当にあの、これは議会には本当に感謝をしたいというふうに思っています。

そして、さっきちょっと副市長ともちょっと話をしたんですけども、今、やっぱりこう問い合わせが結構やっぱりあるんです。これはもう、武雄がもうブランドになっているということもあると思うんですけども、ただね、やっぱり、こう、北方の工業団地が大規模がちょっと要件となっているんで、もっと少し、柔軟にしてもいいのかなということも思います。だから、まあ、あまりにも小規模っていうのは、ちょっとね、課題かもしれませんので、もう少しその要件を下げるなりして、県とよく調整をしましてね、もっと引き込む努力、魅力ある企業誘致をしていきたいと思っています。

そして、最後にしますけど、あとね、県が本当によく頑張ってくれました、県が。古川知事を初めとして、本当に県のね、担当のセクションの皆さんたちが、ここまで肩入れしていいのかなというぐらいにね、本当にこう、一生懸命やっていただいたこと、そしてこれ、皆さんの努力と熱意のおかげでここまできたということですので、本当に感謝をしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そうなんですよね。もう本当チームとしての企業誘致が功を奏しているという考えが一番正しいのかなと思ってます。というのも、今、現在の企業立地課の皆さんもかなり一生懸命、企業誘致に邁進していただいておりますし、その前の段階の企業立地の職員の方。でまた、それに伴う、もう本当チームとしての企業誘致が実現しているのが今の武雄なのかなと。まあもう、実績をまとめてみると、もう1,000人を超える企業、雇用が生まれているというのは、本当にうれしいことですね。

この工業団地、北方のほうなんですけれども、さきほど答弁出ておりました工業団地。これがですね、取りつけ道路が最終的にどうなるのかちょっと、あれですけど、この図はちょっと簡単に私が、描いただけなので、あれですけども、前回の12月議会のほうで、企業誘致の呼び水として、今回コスモス薬品さんが入っていただいたことによって、企業誘致の呼び水としての今後の展開はどういう、展望はどうだということで、質問させていただいておったところですね。まあ、そのときの答弁としては、ある企業と調整中という答弁でした。これについては、またそれから、3カ月、もう本当、刻一刻、一刻ですね、いろんな情報がありますけれども、こちら辺は今現在どういう状況なのか、話せる程度、いろいろ制限があるかもわかりませんが、こちらのほうも答弁お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それはあの、この北方の工業団地にまず、限って言いますとね、ちょっといくつか大きなところと調整をしています。これについてはまだ、公表できる段階じゃないんですけども、夏頃にはいい話が多分できると思うんです。

それで今、決まってる、コンプリートしたお話をしますとね、株式会社タケックス様が、昨年4月武雄工業団地に事業拡張で、進出をさせていただいて、若木のですね。武雄工業団地に、事業拡張で進出、操業開始をされておられます。このたび、同社の跡地、タケックスさんの跡地ですよ、跡地、朝日町中野ですけども、ここで今、ちょっと紛らわしいんですけど、サニックスさん、武雄工業団地、あの若木のね、武雄工業団地で操業中のサニックスさんが今度、事業拡張されます。事業拡張されて、この跡地に新規事業所を設立される運びとなりました。何かタケックスさんと、サニックスさんって、ちょっとなかなかわかりにくい部分があるので、まあどっちもいい企業さんなんですけども。もう一回整理するとね、タケックスさんの跡地に、サニックスさんが若木は残しといて、武雄のタケックスさんの跡地でも行われるという、わかりました。ああよかった。見込みです。それで進出協定調印式をあした6日に行うこととしました。

このようにね、本当に何て言うんですかね、あそこちょっと懸案になっていたんですよ、タケックスさんの跡地をちょっとどうなるのかなというので、まあ、我々も心配してたんですけども、サニックスさんのほんと温かい御厚意と事業拡張ということでね、お越しいただくということで、繰り返し言いますが若木はちゃんと残りますので、残った上で拡張するというので、今後はね多分ね、こういうパターンが増えてくると思います。こういうパターンが。まあよそからね、お越しいただくっていうのはもちろん大事なんですけれども、今ある企業さんが、拡張して場所が足りなくなった場合に、武雄市内で事業拡張として、拡張操業するというパターンもね、今後ふえていくと思いますので、これについても全面的にや

っぱり応援して参りたいと思っております。まあこれもよく、北川理事ね、それと千賀さん、古田さん、そして池田さん、本当によく頑張ってくれましたので、それとあとね、うち、ここはなんかこう、あれなんですよ、親分社会みたいなんですよ。北川親分を中心として。うん。そのOBの人とかね、松尾謙一とか朝長、OBとかね、うまく人を使ってね、本当にこう、よくこう引き込んできたなということなんで、まあある意味北川チームのね、こう、やってきてくれたんだなっていうふうに思っています。ですので今後もね、いろんなこういう明るいニュースが多分出てくると思いますので、早くお知らせできるようにね、誠心誠意、また、まあ私は賞味期限切れですけど、今度改選される議会とね、がまた中心となってねまたやっていただければいいな、とこのように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

タケックス、サニックス本当ありがたい話ですよ。

そうするとですね、企業誘致については、本当に先ほどの話も含めて、結果を出していただいております。今後任期満了が間近に迫っているわけでございますけれども、ちょっと私はですね、今のところ、首長選に関するマニフェストというのを、何も見たこともないですし、ただ、これまでですね、2回マニフェストが出されていたのではないかなと思っておりますけれども、3回目っちゅうのは、そこら辺はどうなんでしょうか。出されるつもりか、そういうのを、答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

マニフェストは、ちょっとあの、あれですよね記者室からも求められていますので、ちょっと、公表、正式な公表はちゃんとします。いつでしたっけ……（「あさって」と呼ぶものあり）あさってでございます。なんでそっちから出てくるのかよくわからないんですけども、あさって行おうと思っているんです。それで今のところ書き込もうという方向は、やっぱり消費税が5%、4月からね、また今度8%になりますよね、これ生活に直撃しますので、まあやっぱり我々としてはできることは、やっぱり市民の負担、痛み、苦しみを和らげる方向で、水道料金の引き下げはぜひ書きたいと思っております。水道料金の引き下げは。そのパーセンテージについては、ちょっと今、中で最終調整中なんですけど、やっぱ5%は下げたいと思っているんです。ですので、そういったことを含めて、まあそれが多分目玉になっていくと思うんです。それと、かつですね、やっぱりこう移住の皆さんたちが物すごく、今武雄は住みたい田舎ランキングで全国第2位になってますけれども、お越しいただいた方がちょっとがっかりされる場面があるんですね。どこに聞いていいのかわからないとか、いろいろ例え

ば古民家であったりとか、お住まいであったりとかっていうのがあるので、それを一元的に、なんていうんですかね、体制を一元、窓口の課をつくらうと思ってます。

今のところ名前はお住もう課にしようと思ってます。はい。お結び課に並ぶお住もう課、「お」おですよ。ね。「住む」、住むで「もう」もう課、「お住もう課」っていうのをつくって、そういうふうに、やっぱり名前がね、こうやわかみとか、親しみをこう感じさせるようなものにして、移住の一つの大きな柱にしていきたいというふうに思ってるんですね。

あと、いくつかありますけれども、今最終調整に、私の中でね、私の中でちょっと最終調整を今していますので、まああさっての会見で間に合わせて、ちゃんと公表したいなというふうには思っています。ですので、やっぱりですね僕はマニフェストという言葉はあまり好きじゃないんですけども、まあ公約という形で出していきたいというように思っています。これをもって、あと、やっぱあれもしたかですよ、図書館も。はい。キッズライブラリー。うん、これもぜひしたいと思っています。ですのであまり言うともうネタがなくなってしまうのでこの辺にさせていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい。出すということですので、その政策でぜひですね、戦っていただきたいなと思っておりますけれども。

まあこれまでですね、企業誘致の実績が高く評価される場所ではないかなと思うんですけど、さらなるその雇用の創出と、ぜひですねこの学校誘致っていうのにはですね、私は期待をしたいなというところがありますけれども、ここら辺の意気込みについては最後にお伺いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと、ごめんなさい。これ、ここ公約発表の場じゃないんで、私のちょっと夢を語りたんですけども、急がば回れだと思っんです。ですので、我々は代田教育監にお越しいただいて、教育長との、だんだん何かこう顔つきが似たような気がしてきたんですけども、強力なタッグでね、小学校の教育をよそのお子さんたち、お母さんたち、お父さんたちからお越しいただくような、教育の中身にしてほしいっていうふうに思っていて、それに対する全面的なバックアップはしたいと思ってるんです。その上で、今度ね、そうなってくると次中学校なんです、多分。その小学校を受けた教育の子がね、同じ内容で中学校で受けたいってなると、そのときに今ある、例えば川登中とか、北中であつたりとか、北方中であつたりとか、山内中の中学校のカリキュラムが多分変わってくると思っんです。変わってくる

って。それは、我々を変えたいじゃなくて、多分保護者の皆さんとか、子どもたちがね、小学校のときに、例えば反転授業でもいいんですけども、それを中学校でもぜひしたい。

そうになるとね、中学校の卒業生どうなるかっていうと、どうなるかっていうと、近くに高校っていうふうになるんですよ。近くに高校って。それを例えば、まあ県立高校になるのか、市立高校になるのか、はたまた私立、市外、県外の私立高校になるのか、そういう土壌が整ってからねぜひ、私はそれはぜひやりたいと思っているんで、まあいずれにしても物理的に言うと次の任期4年ですよ。まあ途中で辞めた人もいますけど、4年なんで、そこで達成できるのかっていうのは、それは疑問なんですけど、その次の期ですね、議会もそうなんですけれども、あらかたな具体的な方向性はもう出せる時に武雄はきてると思いますので、ぜひそれに向けて、上田議員さんと一緒にね、チャレンジをしていきたいというように思っています。

僕は急がば回れという言葉が大好き。あんまりスピードは得意じゃありませんので、そこは慎重に、まあ、じんわりじんわりね、やっていきたいとこのように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。

急がば回れ、急ぎましょう、何とかできる限り頑張っていきたいと思っております。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で3番上田議員の質問を終了させていただきます。